

令和3年度 磐田市立磐田北小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供	本気で聴いて、つなげて考える子供	授業の内容がよく分かる 目標90%	A	【児童回答93.6%、保護者回答90.3%、教師回答81.8%】 児童の自己評価は高い数値が見られた。教師が丁寧に指導していて授業内で分かると考えている子供が多い。しかし、定着が十分でない子供も見られる。タブレットを日常的に扱うようになったためドリル学習として「eライブラリ」を有効に活用することができている。通常の漢字や計算ドリルに加えて実施し、学習内容の定着につなげたい。 3つに整理された目標のもと、【知識・技能】を生かした学習活動を通して【思考力・判断力・表現力】を育てていきたい。また、その過程において粘り強く取り組み、自ら学習を調整して【主体的に学習に取り組む】ことができるよう指導していく。	ICT機器の活用がなされていて大変良い。保護者の協力もとても大きいと思う。従来の宿題に追加してタブレットを活用した宿題もある。寝る直前までタブレットを気にする子供もいたようだ。オンライン授業やICT機器の活用について、運用のルールが大切。
		友達や先生の話をつかろうとして聞き、自分の考えと比べている 目標90%	A	【児童回答93.1%、保護者回答90.3%、教師回答81.8%】 タブレットを活用することで、自分の考えを表現したり、友達の考えを知ったりすることが容易になったため、自分の考えと比べながら話を聞くことができたことと自己評価できた子供が多かったと考える。 タブレットによって互いの考えを見て共有することか可能になったが、これを形だけのものにせず、学習課題として焦点化させていくことが指導の重点だと考える。知識を関連づけて理解する、情報を精査して考えを形成するなどの深い学びにつなげることを目指し、教師の研修課題として焦点化をキーワードに授業づくりを進めていきたい。	教師の意識として危機感をもって臨んでいると受け止め、それをありがたいと感じる。分かった気になっている子供も多い。分からないところを自分から聞く力を身に付けさせてあげたい。
い自分自身を尊重する心をもち、正しく判断し、よりよい子供	自分も人も大切に、挨拶・返事のできる子供	周りの人に挨拶したりルールを守ったりして、友達と一緒に楽しく活動している 目標95%	A	【児童回答95.7%、保護者回答93.6%、教師回答90.9%】 コロナ禍でのあいさつ運動にも慣れ、児童を含めた3者の評価がいずれも高い。学校へ通うこと自体を好意的に捉え、学級での生活も含め友達と楽しく過ごすことができている表れだと考える。 挨拶に対して返事をしない児童も見られるが、感染症対策で守らなければならないルールが多い中、児童たちは頑張っている。できないことを指導するばかりではなく、できることを認め励ますことを意識して指導している。	4月に比べてあいさつをよくすることができている。ぜひ子どもたちによくなっていると伝えてあげてほしい。
		学級にはお互いにルールを守り、協力する雰囲気がある 目標90%	A	【児童回答90.0%、保護者回答91.7%、教師回答95.5%】 昨年度まで届いていなかった児童の評価値が目標値に到達した。教育活動に制限がかかり、行事が中止される学年もあった。お互いに協力できているのは児童の頑張りはもちろん、我慢をしているところもあると思われる。 数値の高さに安心するのではなく、10%の児童たちに目を向けて見守るようにしたい。	適応できていない子どももいるかもしれない。教師の配慮が必要。リモートで話をするのと実際に顔を向き合わせて話すのでは、やはり違う。関係性を大事にしたい。
		学校に楽しく通っている 目標90%	A	【児童回答91.3%、保護者回答93.3%、教師回答100%】 児童はもちろん、保護者の回答でも目標値に到達できたことを大変うれしく思う。学習の内容がよく分かり、互いに協力する雰囲気がある学校であることに比例して、児童が学校を楽しんでいる。また、友達と過ごすことに大きな価値を見出す児童や保護者が多い。 オンライン授業も可能になった現在だからこそ、人とのつながりや対話を今後も大切にしていきたい。	数値上では子どもと教師に乖離が見られる。楽しくないと感じている子供に目を向け、何が原因なのか意識的に見守ってあげてほしい。 学級閉鎖があってもオンライン授業につながっていてよい。
いちし、な心や難身かになをな挑戦心戦えをす合も	チャレンジングする子供	健康な心と体づくりにおいて、目標に向かって努力している 目標90%	A	【児童回答94.1%、保護者回答83.9%、教師回答95.5%】 感染症防止のため、検温や教室の換気、マスク着用などの基本的な対策を守っていることで評価数値が高くなっている。また、新しい生活様式の中でも運動会の学年団体競技に向けて練習に励んだり、持久走や短縄跳びで目標を決めて記録会に臨んだりする姿も見られた。 明確に目標を設定して粘り強く努力する程度については児童によって個人差が見られるが、目標に向かって前向きに取り組めるよう体育カードを活用したり賞褒の方法を工夫したりしていく。	人数の多い学級でも給食の配膳を工夫して対応していることが分かった。大変だけれども、配慮を続けてほしい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

感染傾向が緩やかになった時期に地域の行事を行ったことで、子どもたちも地域の方も大きな充実感を得たという話を伺い、子どもたちは地域に守られていることを改めて実感した。家庭・地域・学校で連携して子どもたちを見守り育てていくためにも、従来の方法だけでなく、新しいことにチャレンジしたり工夫したりしていきたい。学校評価の結果について、肯定意見ではない子の見守りが重要であることを御指摘いただいた。子ども一人一人に目を向け、自己肯定感を高められるような励ましの声を掛けていく。教師の働き方改革についても、メンタルヘルスチェックの定期的な実施と並行しながら、実行可能な業務改善を続けていく。子どもへの指導も含め、掛け声だけで終わらないよう具体的に考えていく。